

愛教研教育情報

松山市祝谷町1丁目5-33
愛媛県教育研究協議会
編集 情報宣伝部



愛教研綱領

われわれは、日本の伝統をふまえ、広く世界の進歩に目を注いで、人類の福祉と文化の向上に役立つ、清新はつらつとした日本教育の充実発展にまい進する。

一、教育専門職としての使命感に徹し、正常な教育の進展をはかる。

一、研究を積み、人格と識見を高め、教職員の誇りと責任を自覚する。

一、身分の保障、勤務条件の改善に努め、社会的・経済的地位の向上をはかる。

一、児童生徒とともに生き、国民の信頼と期待にこたえる。

一、会員の親和を密にし、友好団体と提携して、組織の強化拡充をはかる。

第六十二回愛教研定期総会 生きる力を育む教育の創造

会員意識の高揚や組織の活性化に努め、 県民の期待と信頼に応える教育研究団体を目指して

令和三年五月八日（土）に予定していた、「第六十二回愛媛県教育研究協議会定期総会」は、新型コロナウイルスの感染拡大のため開催を中止し、書面による表決となった。

昨年度から小学校で、今年度から中学校で全面实施となる新学習指導要領に示されている、「何ができるようにするか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の三つの柱を中心に「生きる力」を育成するために、「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」など、学校教育の質的転換が図られようとしている。私たち愛教研は職能団体としての主体性を堅持し、その趣旨を理解・共有しながら、家庭・地域等との連携の下、創意工夫を生かした特色ある学校づくりを行い、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む教育を推進していかねばならない。

役員改選では、玉井啓二会長他十三名の役員が選出された。玉井会長のリーダーシップのもと、更なる支部組織の活性化や会員意識の高揚に積極的に取り組んでいく。

あいさつ



愛教研会員の皆様へ

会長 石丸 誠司

第六十二回定期総会が二年前に開催できることを期待

していましたが、県内の感染状況を考慮して、今年度も書面表決に代えさせていただきます。会員の皆様や学校の安全確保のための措置です。御理解をどうぞよろしく願います。

さて、令和二年度は、私たちがこれまでに経験したことがない一年になりました。日常生活はもちろん、教育活動のほとんどにおいて、これまでの当たり前を見直す日々が

続きました。それでも、各校においては、可能性を探りながら活動の工夫に取り組まれたことと拝察いたします。

私たちの愛教研も、創立六十周年記念式典の中止や愛媛県教育研究大会の一年延期を余儀なくされるなど、創立以来取り組んできた活動の大幅な見直しを迫られました。その中で、十一月七日には「未来への提言」を実施することができました。実施に関わつ

てくださった皆様に改めてお礼を申し上げます。

愛教研は、ここ数年、新規採用教職員や再任用教職員が増加することで、会員数が減少傾向にあります。その上、昨年度は感染症予防対策のため通常の活動ができなくなるなど、愛教研の将来を危惧する課題が生じています。

このような状況下で実施された「未来の提言」は、誠にタイムリーなものであり、愛媛の教育界の現状を踏まえ、将来を見据えた積極的な提言をいただくことができました。

これも先輩諸氏が築き上げてきた愛教研の歴史と伝統を受け継ぎ、会員の皆様の意識の高揚が図られていることによるものと感謝しています。

しばらくは、感染症の予防対策に努めながら、一年延期している愛媛県教育研究大会の推進をはじめ、できる活動に取り組むこととなります。

また、オンラインによる会議の導入など、時代の変化に即した活動も積極的に取り入れていきます。会員の皆様には、

これまでと同様に愛教研の充実と発展に御協力いただき、愛媛の子どもたちの教育に共に取り組んでいくことをお願いいたします。

この度、「教育研究論文」の表彰を受けられる皆様、誠におめでとうございます。また、功労者表彰、御退職・御退任の皆様方、長きにわたって愛教研活動に御尽力いただき、誠にありがとうございます。

結びに、愛媛の子どもたちがコロナ禍に負けないで笑顔で学校生活を送れることを願うとともに、会員の皆様の御多幸と御健勝を祈念申し上げます。

（令和三年五月八日）

祝 辞



愛媛県教育委員会

教育長 田所 竜二

愛媛県教育研究協議会におかれては、結成当初から様々な教育課題の解決に向けた実践研究に取り組まれ、本県教育の推進に格別の御尽力をい

ただいておりますことに、厚く御礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、本県にまん延防止等重点措置が適用されるなど一段と厳しさを増しておりますが、各学校では、教職員が一丸となり、保護者や地域の方々と連携の下、学校の安全を確保しながら子どもたちのより良い学びの実現に向けて、たゆまぬ努力を続けていただいておりますことに心より感謝申し上げます。

さて、今年度は、「学校教育ICT元年」とも位置付けられ、全ての公立学校において1人1台端末による本格的なICT教育がスタートします。ICT活用は、本県が教育振興の柱に掲げる「未来を拓く子どもたちの育成」を実現するための鍵となるものであり、県教育委員会では、その指針として、児童生徒の発達段階に応じた教育プログラムや実践事例をまとめたガイドラインを策定しました。さらに、学力調査はもとより各学校の定期テスト等をコンピュータ上で実施できるCBTシステムの開発・運用や、ICTを活用した不登校児童生徒への支援などICTの高い教育効果を十分に発揮できるように様々な取組みを進めることとしております。

今後は、これまで積み上げ

てきた愛媛の教育実践に、ICTならではの効果を取り入れた質の高い教育が県内全域で展開されるよう、皆様の一層の御尽力をお願いいたします。

こうした中、貴協議会では、新学習指導要領の核とも言える「主体的・対話的で深い学び」に焦点を当て、「子どもが変わる教育の推進」を主題に掲げて、授業や学校のあり方に係る実践的な研究を積み重ねておられることを誠に心強く存じます。先行きの見通せない社会にあつて、教育の役割はかつてなく高まっております。県教育委員会といたしまして、コロナ禍やICTの導入など教育現場の変化に適切に対応しながら、子どもたちの学びが活性化し、確かなものとなるよう貴協議会との連携に努めてまいりたいと思

います。

終わりに、貴協議会の益々の御発展と会員の皆様方の御健勝・御活躍を心からお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。



令和3年度

活動方針（要旨）

基本方針

一 確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を図る教育の推進

「生きる力」を育むためには、自ら学び、自ら考える力を育成するとともに、グローバル社会に生きる日本人としての豊かな人間性や社会性、健康や体力を培うことが大切である。そのために、家庭・地域等との連携を深めながら、知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開する中で、自立と協働と創造をキーワードにした未来型の教育を志向する。

二 一人一人を大切にした教育の推進

いじめ問題や不登校、多様な教育的ニーズへの対応など、多くの教育課題を解決するために、生命尊重・人権尊重を基盤として、個に応じた多様できめ細かな指導を行うことが必要である。そのためによりよい人間関係を形成しながら、自己有用感を育む学級・学校づくりに努め、児童生徒にとって、学校が心安らぎ、共に生きる場となるよう、一人一人を大切にした教育を推進する。

三 信頼される学校づくりの推進

安全・安心な環境の中で、

児童生徒が愛顔で学校生活を送り、目を輝かせて豊かに学ぶことのできる教育活動を展開すること、保護者や地域・社会から信頼される学校となり得る。そのために、各学校においては、教職員の資質・能力の向上やより開かれた学校づくりに努めるとともに、地域や学校・児童生徒の実態を踏まえ、コミュニティ・スクールの推進等により学校支援体制を構築し、家庭・地域等と連携した創意ある教育活動の展開を積極的に推進する。

活動内容

愛教研の活動は、会員一人一人の熱意と連帯意識に支えられた組織活動が基盤であることを認識し、本年度の活動内容を次のように設定し、愛媛の教育の充実・発展に努める。

なお、引き続きコロナ禍の現状において、各種会合、研修会等の実施に際しては、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じながら運営し、オンラインでの開催が可能な場合は、積極的に導入する。

一 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒の実態に視点を当てて、創意に満ちた堅実な教育研究を進める。

二 時代や会員のニーズに応える組織局活動を積極的に実施し、会員意識・連帯意識の高揚を図る。

三 養護教員部・事務職員部・栄養教員部のそれぞれの専門性を認識し、研修の充実と活動の活性化を図り、学校教育活動の充実と進展に努める。

四 全国的視野に立った教育諸条件の改善を図るため、要望活動及び情報宣伝活動を活発にする。また、へき地教育を振興・充実させるとともに、学校力を高める地域教育の研究を推進する。

五 福利厚生に関する諸活動を積極的に推進し、会員の互助・親和を図る。

議案審議の経過

事前に、宣言文起草委員によって大会宣言文案を、役員選考委員によって新役員候補案を検討しました。

その後、各支部から選出された百十三名の代議員に総会要項、大会宣言文案、新役員候補案等の資料を送り、それぞれについて承認の可否を問いました。

議案審議事項（令和2年度事業並びに会務報告、令和2年度決算報告、令和3年度活動方針及び事業計画、令和3年度会費に関する件、令和3年度予算、愛教研会則の改正、旅費規程の改正、大会宣言、新役員候補）は、全て承認されました。

大会宣言

愛教研は創立以来、愛媛の児童生徒の幸せを願い、綱領にのっとり鋭意活動を続け、着実にその成果をあげてきた。

現在、Society 5.0へと社会が急速に変化している中、5Gなどの技術革新が加速度的に進み、その変化に通用する「生きる力」を育成することが学校教育に求められている。また、働き方改革や教職員の世代交代が進む中において、いじめ問題や不登校、安全教育の推進、新型コロナウイルス感染症への対応など、児童生徒を取り巻く諸課題を解決するために、学校における組織的な取組や教職員の資質・能力の向上も一層必要となっている。このような状況において、昨年度から小学校で、今年度から中学校で全面実施となる新学習指導要領に示されている、「何が得意なようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の三つの柱を中心に「生きる力」を育成するために、「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」など、学校教育の質的転換が図られようとしている。また、文部科学省が示す「GIGAスクール構想の実現」では、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できるICT環境を実現することが示され、各市町で着実に整備されつつある。

これらの変化に対応するために、各学校では、その趣旨を理解・共有しながら、家庭・地域等との連携の下、創意工夫を生かした特色ある学校づくりを行い、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育む教育を推進していかねばならない。

我々は教育実践者として、地域や学校、児童生徒の実態を踏まえ、コミュニティ・スクールの推進等により学校支援体制を構築し、グローバル社会に生きる日本人を育てるべく、自立と協働と創造をキーワードにした未来型の教育を志向していく。そのためにも、学校教育の役割を常に直視しながら、児童生徒が愛媛で学校生活を送り、目を輝かせて豊かに学ぶことのできる教育実践が積み重ね、信頼される力のある学校づくりを一層推進する必要がある。

我々会員は、職能団体としての主体性を堅持し、結成以来積み上げてきた成果を基に、更なる充実・発展を目指してきた。昭和・平成・令和と歴史を重ね、創立61年目を迎える本年度も、会員意識の高揚を図り、資質・能力の向上や時代の変化に対応できる研修活動等を実施し、会員の総意に基づく要望活動や親和提携を図る諸活動等を通して、組織の活性化を図り、県民の期待と信頼に応える教育活動を推進しなければならぬ。

ここに、第六十二回定期総会を機に、愛教研綱領及び令和三年度の活動方針に基づき、次のことを決議する。

- 一 教育専門職として主体的に研修に取り組み、自らの資質・能力の向上を図り、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を図る教育の推進に努める。
- 一 将来の日本を担う児童生徒を育成するために、生命尊重・人権尊重を基盤として、個に応じた多様なきめ細かな指導を行うなど、一人一人を大切にしたい教育の推進に努める。
- 一 感染症対策やGIGAスクール構想に伴うICT環境の整備など、教育効果を高めるための教育諸条件の整備・改善、及び教職員の勤務条件の改善に努める。
- 一 いじめ問題や不登校、多様な教育的ニーズへの対応など、多くの教育課題を解決するために、家庭・地域等と連携した創意ある教育活動を展開し、信頼される学校づくりの推進に努める。

右 宣言する

令和三年五月八日

第六十二回愛媛県教育研究協議会定期総会

選出された本部役員

会 長

玉井 啓二 松山・垣生小

副 会 長

越智 秀雄 今治・伯方中

宮岡 真司 松前・岡田小

渡邊 恵理 松山・湯山小

稲葉 賢 宇和島・住吉小

教育研究局長

渡部 ゆかり 松山・勝山中

組織局長

松浦 博文 伊予・港南中

組織局次長

芳野 妙美 松山・姫山小

専門局長

高橋 美鈴 新居浜・泉川小

法制情報局長

川上 斉睦 今治・七川小

福利厚生局長

河野 哲弥 西予・皆田小

会計監事

小野 秀雄 新居浜・神郷小

若下仁三夫 伊予・港南中

今井 純 愛南・福浦小

本部表彰

教育功労賞

国語委員長 田頭 良博

算数・数学委員長 高田 誠

生活科委員長 渡部万美江

図工美術委員長 岡村 真一

人権教育委員長 小黒 裕二

感謝状

退職退任役員

会 長 石丸 誠司

副 会 長 河端 一雄

組織局長 橋本 佳史

養護教員部長 米湊 美香

栄養教員部長 郷田 直子

情報宣伝部長 小笠原忠彦

へき地・地域教育部長 水木 悌三

福利厚生局長 萩森 潤

四国中央支部長 高橋 浩二

新居浜支部長 神野 剛

西条支部長 近藤 一雄

今治・越智支部長 松岡 良介

喜多支部長 宮瀬 弘吉

北宇和支部長 毛利 賢治

しあさい

晴れた日は

作家・吉川英治氏の言葉に、「晴れた日は晴れを愛し、雨の日は雨を愛す。楽しみあるところに楽しみ、楽しみなきところに楽しむ。」という言葉がある。どんな時もその時々その場の楽しみがある。どんな人にもそれぞれ魅力があり、どんなことにも楽しみ方はあるということだろうか。すべては「自分の心が決める」ということである。

さて、昨年来の新型コロナウイルス感染症の流行により、行事の参加人数の制限や中止など、児童生徒や保護者、教職員が窮屈に感じる場面も多々ある。ここは冒頭の吉川氏の言葉のように、できないことを数えるのではなく、できることを楽しむという発想の転換が必要ではないかと思う。私が昔お世話になった先輩はいつも「ピンチはチャンス」とおっしゃっていた。このような時こそ、愛教研のつながりの力が強い。様々なアイデアや実践の情報を共有し、ピンチをチャンスに変えていける力があると確信している。

令和二年度
情報宣伝部 常任部員
倉崎 博

令和二年度（第五十三回） 教育研究論文入賞者

令和二年度教育研究論文応募総数は三十一編（小学校二十一編、中学校十編）で、新型コロナウイルス感染症対策により、話し合い活動等が思うようにできなかったことなどから昨年度より十編減りましたが、内容は先生方の実践研究への熱い思いが伝わってくるものばかりでした。その中から入選三編、佳作六編が選ばれました。

入賞された方々と研究主題は左記のとおりです。内容等は、「第五十三回教育研究論文集」（六月発行予定、全会員配付）を御覧ください。

〈入選〉

算数・数学

数学科において知識の理解の質を高めるための学習指導の在り方

ーウェブシステムを活用した反転授業を通してー
大洲市立大洲南中学校

教諭 福住 公宏

生活

生活科における「見方・考え方を生かした」指導の在り方を探る

ー第1学年「かぞくハッピー大さくせん」の実践を通してー
愛媛大学教育学部附属小学校

教諭 大塚 翔

保健体育

だれもが運動の楽しさや喜

びに触れ意欲と技能を高めるネット型ゲーム指導の工夫

ー「攻守一体プレイタイプ」と「連携プレイタイプ」を組み合わせた授業実践を通してー
大洲市立新谷小学校

教諭 入澤 勝利

（現 愛媛大学大学院）

〈佳作〉

理科

生徒自らが学習活動をデザインできる理科学習

ー意欲的に課題に取り組む、自ら学ぶ生徒の育成を目指してー
新居浜市立北中学校

教諭 野間 聡

（現 伊予市立港南中学校）

道徳

「考え、議論する道徳」の実現を目指して

ー「手続きの道徳性」の育成に着目した指導の工夫を通してー
松山市立久枝小学校

教諭 三宅 浩司

健康教育

小学校5年生における認知行動療法的アプローチによるストレスマネジメントプログラムの効果

西条市立多賀小学校
教諭 長谷川 大三
（現 西条市立中川小学校）

健康教育

「配慮」「主張」に視点を当てた児童の人間関係形成能力の育成に関する研究

ー養護教諭と学級担任が連携して行うソーシャルスキルトレーニングの実践を通してー
松山市立湯築小学校

養護教諭 古田 まみ

健康教育

しなやかな心を育てる指導の工夫

ー中学1年生におけるレジリエンス教育を取り入れた学級活動を通してー
大洲市立肱川中学校

養護教諭 森岡 初美
（現 大洲市立菅田小学校）

その他

自律的に学習する児童の育成

ー自主学習ノートを中心とした活動を通してー
松山市立久枝小学校

教諭 辻 健一
（現 愛媛大学教育学部附属小学校）

支部別論文応募者数

支部	応募者数
支 部	
四 国 中 央	1
新 居 浜	2
西 条	1
今 治・越 智	3
松 山	5
東 温	2
伊 予	2
上 浮 穴	2
大 洲	5
喜 多	1
八 幡 浜	3
西 宇 和	1
西 予	0
宇 和 島	1
北 宇 和	0
南 宇 和	1
附 属	1
教科等委員会	0
計	31

事務局人事

退 職

乗松 秀樹

（事務局次長・専門局）

中川 淳一

（法制情報局）

渡部 哲也

（庶務）

新 任

橋本 佳史

（教育研究局）

富永 俊樹

（法制情報局）

道上 修二

（庶務・福利厚生局）

局内異動

井伊 重昭

（事務局次長・組織局）

吉村 由紀

（専門局）

法律相談

愛教研顧問弁護士

武田 秀治 先生

〒七九〇一〇〇〇二

松山市二番町四丁目五一五

三好ビル2F

TEL

（〇八九九三一一七五〇代）

・相談の方法等については、
愛教研事務局にお問い合わせ
ください。

愛教研個人情報の 取扱いについて

- 愛教研では、個人情報保護法等の法令を遵守し、個人情報の保護や安全管理のために、個人情報を次のように取り扱います。
- 一 個人情報の取得について
個人情報の取得に際しては、その目的を書面などで会員に提示して、明確にします。
 - 二 個人情報の利用について
個人情報は明示した利用目的以外の目的では利用しません。
 - 三 個人情報の管理について
個人情報は愛教研以外のものに提供する時は、提供先において当協議会と同等以上の個人情報保護が担保されることを確認します。
 - 四 個人情報の取得は、適正な方法で行います。
 - 五 個人情報は明示した利用目的以外に利用する時は、会員本人の同意を得ます。
 - 六 個人情報は利用目的に必要な範囲で最新かつ正確な内容となるよう更新して利用します。
 - 七 個人情報を愛教研以外のものに提供する時は、提供先において当協議会と同等以上の個人情報保護が担保されることを確認します。
 - 八 個人情報は愛教研以外のものに提供する時は、提供先において当協議会と同等以上の個人情報保護が担保されることを確認します。
 - 九 個人情報は愛教研以外のものに提供する時は、提供先において当協議会と同等以上の個人情報保護が担保されることを確認します。
 - 十 個人情報は愛教研以外のものに提供する時は、提供先において当協議会と同等以上の個人情報保護が担保されることを確認します。

- 者をおき、適正な取扱いが行われるよう監督します。
 - 当協議会の会員及び事務局員は、個人情報保護法等の法令を遵守し、個人情報を適正に取り扱います。
 - 保存期間を終了した個人情報は、復元が不可能な方法で消去します。
 - 個人情報の取扱いを委託する場合は、秘密保持契約を交わすなど、委託先において当協議会と同等以上の個人情報保護が担保されることを確認します。
 - 個人情報委託先で、適切な取扱いがなされるよう当協議会が責任を持って監督します。
- (平成十八年六月二十日)
(理事会承認)
- 愛教研グループウェア・愛教研ミライムの運用について
- 愛教研グループウェアは、愛教研会員で、ネット環境が整備されている場合は、安全で簡単に利用可能です。アドレスは、本紙上部に記載してあります。会員の仮パスワードも各学校宛にお知らせしてあります。会員同士の情報交換や研修等に活用できます。ぜひともご利用ください。
- 愛教研ミライムは、研修会の案内等を愛教研事務局から、学校への連絡に利用しています。

愛教研行事に関する警報発表時の対応について

一 対象とする警報

二 警報発表時の対応

- 「暴風を伴う警報」及び「特別警報」
- 県内全域に発表されたとき
- 行事は中止する。後日の開催等については、後で対応を協議し、関係者に連絡する。
- 地域を限定して発表されたとき
- 「南予のみ」など地域が限定されて警報が発表された場合は、行事を担当する局長が、会長や事務局と協議して決定する。その後、関係者に連絡する。
- ※ 大雨、洪水、大雪、津波などの警報が発令された場合の参加については、気象状況等を考慮し、個人が判断する。

新規採用教職員（四月一日付）

事 務 計	養 護 教 諭	養 護 教 諭	教 諭																小 学 校	中 学 校	計
			南 宇 和	北 宇 和	宇 和 島	西 予	西 予	八 幡 浜	喜 多	大 洲	上 浮 穴	伊 予	東 温	松 山	今 治・ 越 智	西 条	新 居 浜	四 国 中 央			
222	10	1	12	4	5	10	2	0	4	3	5	0	12	4	69	23	22	19	17		
105	8	1	5	1	0	3	5	0	1	0	2	0	6	3	35	8	10	8	9		
327	18	2	17	5	5	13	7	0	5	3	7	0	18	7	104	31	32	27	26		

石原由菜	中川貴美子	田窪大介	河村高重	兵頭みなこ	川口祐綺	土居祐亮	岩上未亮	高城裕冬	渡邊可奈	上杉太一	松崎由香里	森山元貴	福本千尋	北川聡子	西村成章	伊達怜啓	二宮啓一	森
吉井小	広田小	大野小	角之江小	川中勝中	新居浜中	松柏中	緑島小	興居島小	石井東小	岡村小	城南中	今治西中	旭中	川之江小	余土小	金子小	喜須小	角野中
31	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	10	10	8	8	7	7
16	30	30	30	27	25	15	12	10	3	3	29	22	22	8	3	10	1	27



(令和3年4月30日
までの受付分)

吉羽	吉良	大嶋	真鍋	采女	小川	藤中	信岡	松岡	松本	西原	池田	岡田	下岡	吉本	津田	本山	高橋	佐伯	橘	竹宮	横川	峰岡	澤木	渡邊	山本	泉	窪田	織田	渡部	池田	武智	富永	井手	松友	田窪	香川	宮本	近藤	岡田	十亀	新谷	瀬川	
春乃	歩	真広	杏奈	和史	綾亮	歩	舞	圭介	智子	皐祥	穂乃香	凌	優子	卓希	歩巳	泰資	郁人	紫苑	里恵	奈恵	真子	一敏	尚仁	幸宗	成桜	佳奈	智代	歩美	悠人	大地	千尋	早紀	志珠	美帆	奈穂	佳奈	桃佳	真季	敬太	千賀	奈穂		
吉田小	岩松小	城東中	別子中	土居小	松柏小	和霊小	中曾根小	味酒南中	西条南中	中萩小	別子中	新居浜南中	宇和津小	常盤小	正岡小	姫山小	西条北中	西条東中	郡中	河野小	丹原小	垣生中	美川中	中島小	神郷小	新居浜生小	雄郡小	津島中	宮前小	桑原小	高浜中	生石小	雄郡小	中川小	新居浜南中	金栄小	宇和島天神小	浅海小	小松中	宇和町小	美川中		
34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34
25	22	22	11	1	31	31	31	29	21	20	13	13	10	6	3	3	1	1	28	28	28	25	23	22	21	21	14	13	11	11	11	11	11	11	11	11	30	24	24	24	16	16	

カメラのある生活



四国中央市立川滝小学校

石川 博之

長年吸っていたタバコをやめてみた。これまで何度か挑戦したが、今回は何とか続いている。そこで、新たに何かに挑戦しようと思い立ち、ミラーレスカメラを購入した。

私が勤務している川滝小学校は、周囲を山に囲まれた自然に恵まれた地域にあり、全校児童が三十三名の小規模校である。私が購入したミラーレスカメラの力を発揮するには十分である。

二年生の生活科で野菜を育てた。ミニトマトなどの観察を児童と行い、成長の様子を写真に残した。振り返りでは、成長の様子が一目で分かった。また、運動会では、全校児童の頑張りをカメラに収めた。私のカメラは大活躍であった。

川滝小学校は、今年度、開校三十周年記念行事を行った。その際にも、私のミラーレスカメラが活躍した。児童の音楽発表、地元で活躍する「いわくら太鼓」、「キャン

ル」によるコンサートなど私が撮った写真は、学校のホームページにも掲載されている。

ある日の職員室。私が撮った写真を見ながら、校長先生が、

「先生のカメラはきれいに撮れるねえ。」

と褒めてくださった。あれ？私のカメラの腕前ではなく、カメラの性能を褒めていたのである。全くとおりである。最近のカメラの性能はとてつもなくすばらしいのである。

私には三人の娘がいる。まだまだパパのことが大好きな三人娘である。ミラーレスカメラを購入したのは、この三人娘の成長を記録するためでもある。

次女と三女は幼稚園に通っている。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、運動会や発表会などは保護者席が制限され、じいじとばあばは、見ることができなかった。そこで、私のミラーレスカメラの出番である。ミラーレスカメラで動画撮影をすることで、画質がとてもよく、じいじとばあばには好評であった。

最近では、動画編集にも挑戦している。写真や動画は、時間が経つにつれて懐かしさを感じさせてくれる。

今回、川滝小学校四十周年記念行事に向けて動画編集をすることになった。十年後の川滝小学校の子どもたちが、懐かしさを感じてもらえるように編集していきたい。その頃には我が家の三人娘も成長してくれているとうれしいな。

私の休日モーニングルーティーン



新居浜市立金栄小学校

千葉 晃平

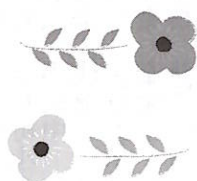
最近、動画投稿サイトYouTubeなどで、「モーニングルーティーン」なる動画が流行している。様々な職業や立場の人が朝起きてからの過ごし方を紹介するというものだ。私も南予の実家に帰ったらずしっている「モーニングルーティーン」があるので、紹介したいと思う。

それは、「墓掃除」である。二十八歳男性教育公務員にしてはかなり地味であるが、私はこの時間を大切にしている。

墓掃除をする際に自分なりに決めているルールがある。それは「デジタル機器をもっていないかないこと」である。日常生活の中で、私のそばにはいつもパソコンやスマホなどのデジタル機器があり、常に何かを気にしながら生活してしまっている。「誰かから連絡が来るのではないか」「気になるからあれを調べてみよう。」など、知らぬ間にスマホに手が伸びる。そんな私が、墓掃除の時間だけは誰もいない状況の中で黙々と作業をすることができ、デジタル機器を一旦置いて何かをするということを墓掃除は教えてくれる。

我が家の墓は、山の中にある。夏は暑くて蚊に刺されるし、冬は凍えるような寒さが襲ってくる。ただ、墓掃除を始めるまで、こんなに季節を感じることが無かったように思う。春は木漏れ日が差す中で、夏はセミの鳴き声を聞きながら、秋には銀杏のじゅうたんが、冬は霜が降り、辺りが静まり返った中で。家の中でテレビを見たり、ゲームをしたりするだけでは感じることものできないものを、墓掃除を通して、私は感じている。黙々と作業をしていると、墓石に何か書かれてあることに気付く。先祖の名前

である。我が家の墓地には、明治初期の先祖の墓まであり、それぞれに名前が彫ってある。「私はこの御先祖様たちが命をつないでくれたおかげでここに立っている。」そして、学校で接している子どもたち、お世話になっている職員室の先生方にも御先祖様がいて、今、巡り合えていることを考えると、何気ない日常にも感謝の思いがあふれてくる。忙しい時もあるし、つらい時もあるけれど、いろいろな人とのつながりを感じられ、子どもたち一人一人の成長のために働くことができた。この職に就いて良かったと心から感じる事ができるのが墓掃除である。



みんなの

学び直し



砥部町立砥部中学校

中橋 亮介

学び直しその一。バレーボール。

バレーボール部の顧問をさせていただくこととなった。私は、バレーボール経験者ではあるが、長らく離れていたもので、頭も体もついていない。まずは頭から学び直し。早速、古本屋に行き、バレーボール関係の本を買い占める。競技ルール、レシーブやサーブの基本、フォーメーションや戦略等…を学び直す。なんとなくプレーしていた当時の私に言い聞かせたい。「もつと考えてバレーボールをしないさい」と。初心に戻り、謙虚な気持ちで学ぶことで、いかに私が知ったかぶりをしていったかが分かった。猛省。

バレーボール関係の本とあらば、漫画もいとわれない。「ハイキュー!!」をはじめ、様々なバレーボールの漫画を読む日々。ストーリーの邪魔をしないように、自然な流れでフォーメーションや戦術の解

説がなされる。テンポよく読めて、しかも飽きない。

ありがたい存在である。今のバレーボールを漫画で知ることもある。学んだことを、そのまま部員に伝えることも少なくない。

次に体を学び直し、もとい鍛え直し。とりあえずサーブからと思い打ってみたものの、一発目にして肩に違和感を覚える。その後、数日間頭痛にも悩まされる。早速、トレーニング用チューブとハンドグリップを購入して、基礎体力の向上に努める。臨時休業の中、土日に部活動もなく、家で漫画を読みふけていた当時の私に言い聞かせたい。「今のうちに体力向上に努めなさい」と。昔の私と今の私は違うのだよ。大けがをする前に、気付くことができたといいことで、よしとしよう。

学び直しその二。数学。

中学二年生の学習内容に四分位範囲や箱ひげ図の内容が入ってくる。もとは高校の学習内容の範囲である。「高校数学かあ…きちんと教えることができないだろうか」と一抹の不安を抱く中、私の数学力はどのくらいなのだろうと疑問に思い、数学検定を受けることにした。中学生や高校生に交じっての受験だったので、少し恥ずかしい気もした。



広場

ふと、他の会場に目をやると、よわい六十を超えているであろう方が、小中学生に交じり受検されている姿があった。その姿を見た瞬間、恥ずかしさが少し和らいだのと、学ぶのに遅すぎることはないと思いにしみて思った。

新しい学習指導要領、新しい生活様式…。世の中が大きく変化していく中で、ついていくことに一生懸命になっていたが、今までの自分を振り返り、学び直すことも新しい発見につながっていくと感じた。

愛媛マラソンから学んだこと



大洲市立菅田小学校

築山 詩乃

昨年度、初任者として本校に赴任した。初任者としての一年を思い出に残るような年にした。そんな思いから、友人から誘いを受けていた愛媛マラソンに応募した。運動は好きだが、走ることはあま

り得意ではない。応募しても抽選で外れるかもしれない。誘われたから応募した。きっかけはただそれだけだった。

抽選に当選し、四二・一九五kmを走るようになった。仕事から帰宅するとすぐ走りに出掛け、本番まで練習を重ねた。経験者からアドバイスをもらい、食事管理をし、できることは全て試した。当日は、無事に完走することができた。タイムは五時間五十六分十三秒。初めての参加で、完走できたことが何よりうれしかった。

完走してから少し経った時、自分のタイムを改めて見て、余裕のないタイムだなあとふと思った。まるで、初任者としての自分自身を表しているかのようだった。胸を弾ませていたのは最初の頃だけで、三十人を超える学級の担任となると、毎日宿題やノートチェックにたくさんの時間を費やした。目先のことに精一杯で、見通しを持って行動することができない。授業の準備が思うようにできず、帰宅してもばたんと寝てしまう毎日だ。どんな仕事もスマー

トにこなす余裕のある先生になリたかったのに、描いていた理想の教師像とは全く違う。理想と現実のギャップに落胆し、自分のふがいなさに

悔しさをにじませた日もあった。せめて最後は時間をかけてお別れをしたいのに、新型コロナウイルス感染症による臨時休業となり、一年間共に過ごした子どもたちと余裕のない別れ方をした。

今年度は、十八人という少人数学級の担任だ。昨年度と同じ学年で、自分にも少し余裕があるようだ。見通しを持ち、子どもと向き合う時間を作れるようになった。授業も「昨年できなかったことを今年はしてみよう。」と考える余裕もある。こう思えるのはきつといっぱい悩んだ過去があったからだ。がむしゃらに過ごした昨年度は無駄ではなかった。フルマラソンという未知の世界へ挑戦し、がむしゃらに練習した自分とびつたり重なる。

愛媛マラソンでたくさんの声援に支えられたように、毎日誰かの力を借りて、励ましてもらいながら仕事をしている。家族、友人、職場の先生方に話を聞いてもらうことが活力になる。とても幸せなことだ。愛媛マラソンを経験して、更にそう思うようになった。

思い出に残るところか、一生忘れられない出来事となった愛媛マラソン。たくさんの方に気付かせてくれ、たくさんさんの学びをくれて本当に感謝している。

南宇和支部

地域の達人に学ぶ

愛南町立柏小学校

山本 直也



竹細工 (たこ作り)

本校は児童数三十六名の小規模校で、学校の東には観音岳を仰ぎ、西には内海湾の美しい海を望むことができる素晴らしい自然環境に囲まれています。その中で、学校の教育目標を「挑戦を楽しむ」とし、地域の伝統を守りつつ、新たな時代に向けて変化することを楽しみ、誰もが安心して学べる学校を目指し、様々な教育活動を行っています。今回はその活動の中から、地域の方々から学ぶ活動を紹介いたします。

まず一つ目は「地域の達人

に学ぶ会」です。地域の方々から様々なことを教えていただきながら親睦を深めることを目的とし、全校で年に一回行っています。今回は、「リース作り」「石アート」「そば打ち」「竹細工」の四つの講座が開かれました。どの講座も一通り説明を受けた後、創作活動に移りました。地域の達人たちの鮮やかな手さばきや技能に、児童たちは尊敬のまなざしを送っていました。最初は児童たちは慣れない作業に戸惑っている様子でしたが、達人の方々が優しく丁寧に教えてくださり、夢中になって作業に取り組みました。

二つ目は、五・六年生が行っている「ろう画教室」です。「ろう画」は地域の方が考え出したオリジナルの芸術作品です。溶かしたろうを和紙に吹き付け、独特の斑点や模様を浮かび上げらせる技法が使われています。児童たちは作品の作り方だけではなく、地域の方の作品に寄せる熱い思いに触れ、多くのことを学ぶことができました。どちらの活動も、新型コロナウイルス感染症拡大によっ

各地だより



「ろう画」制作の様子

て開催が危ぶまれましたが、感染対策に十分に留意しながら開催することができました。

今後も地域と連携し、地域との親睦を深めながら、地域を愛する児童の育成を目指していきたいと思っています。

附属支部

Withコロナ期 地域・保護者をつながるオンラインでの新しい形 ーどたばた奮闘記二〇二〇ー

愛媛大学教育学部附属中学校

真木 大輔

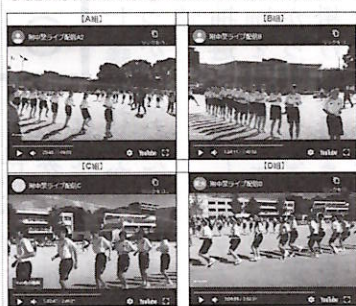
「二〇二〇・二・二十七 全国の学校に一斉臨時休業要請」授業は？生徒の生活の様子は？健康状態の確認は？その

中で始まった新年度。どたばたの事態。教育活動のICT化への準備の遅れを痛感しました。そこからの本校がいかに生徒や保護者をつながつたか、その挑戦について紹介します。

挑戦その一 生徒をつながる
学校再開までの間、パスワード付のIDを生徒に割り振り、本校のHP上で、生徒のみが閲覧できる学習動画、学習資料、学級通信等の配信を行いました。また、希望する家庭に対して授業用タブレット端末を貸し出し、六月には全ての生徒と教員がオンラインでつながるようにしました。

挑戦その二

保護者をつながる
学校再開後も大勢の保護者を一堂に集めることが難しかったため、学校行事のオンライン配信に挑戦しました。



運動会ライブ配信

運動会では、競技する姿を学級ごとに別々のカメラで撮影し、保護者限定でライブ配信をしました。この配信は好評で、仕事で見に來られない保護者にもインターネットを通じて、生徒の頑張る姿を見ていただくことができました。これらの成果をもとに持久走大会もライブ配信しました。

挑戦その三 地域をつながる

附属五校園(幼小中高特支)では、毎年、小学校の後援会が主催の「附属祭」を開催しています。例年、お化け屋敷やバザーなどが行われていました。今年は、新しい試みとしてネット投稿コンテストを行いました。様々なパフォーマンス動画について、視聴者の「いいね」の数で競います。小学生の可愛い二重跳びや、中学生のカッコいいダンスなど、多数の応募があり、子どもたちと地域・保護者がつながる新しい形での文化祭を実現することができました。

コロナ禍に対応していくことは大変ではありますが、「今だからこそのこと」を合言葉に、これからも開かれた学校づくりに努め、保護者や地域の方との連携を深めていきたいと思っています。